

# 小中連携、一貫教育校の学校施設の在り方に関するアンケート調査 (集計結果)

## 調査対象・項目

### 【1. 調査対象】

小中連携、一貫教育<sup>※1</sup>の導入を目的として施設整備を行い、平成18年4月から平成25年5月までの間に開校した施設一体型校舎<sup>※2</sup>の公立小中学校(131校)

※1 小中連携、一貫教育の定義については、中央教育審議会 初等中等教育分科会 学校段階間の連携・接続等に関する作業部会「小中連携、一貫教育に関する主な意見等の整理(平成24年7月)」による。

- ・小中連携: 小・中学校が互いに情報交換・交流することを通じ、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育
- ・小中一貫教育: 小中連携のうち、小・中学校が9年間を通じた教育課程を編成し、それに基づき行う系統的な教育

※2 同一敷地内に小学校及び中学校を設置し、両者の校舎を一体に整備しているものをいう。  
(小学校と中学校の校舎が渡り廊下等でつながっているものを含む。)

### 【2. 主な調査項目】

施設一体型の小中連携、一貫教育校における校舎の計画・設計内容等

### 【3. 調査期間】

平成25年9月13日～11月8日

### 【4. 調査時点】

平成25年5月1日時点

## 1. 施設一体型校舎の小中連携、一貫教育校ごとに集計

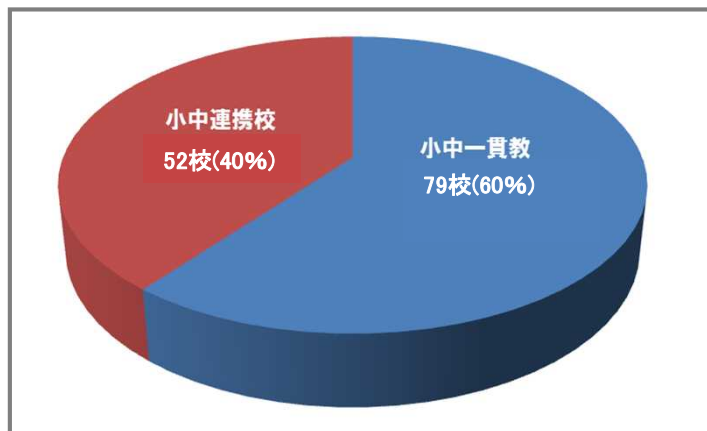
小中一貫教育校：79校  
小中連携校：52校

## 【問1-2】 施設一体型校舎の小中連携、一貫教育の校数

貴校は、以下のどれに該当しますか。

- 1 施設一体型の小中一貫教育校
- 2 施設一体型の小中連携校
- 3 施設一体型校舎であるが、小中連携、一貫教育を実施していない
- 4 その他

- 近年開校した施設一体型校舎の小中一貫教育校、小中連携校の別について、小中一貫教育校が79校、小中連携校が52校である。

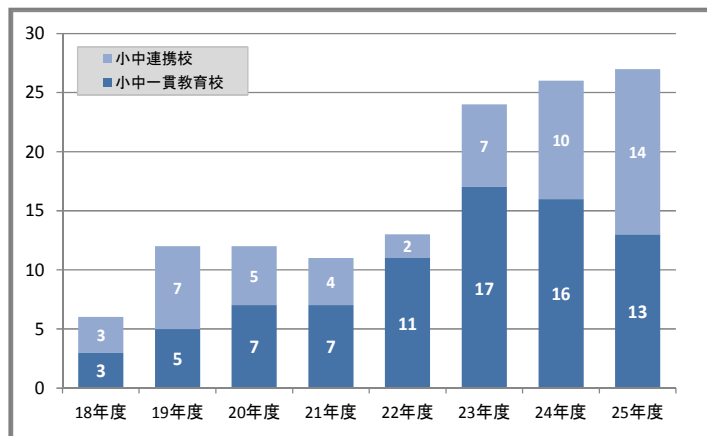


■ 小中一貫教育、小中連携の校数

① 小中一貫教育校	79校(60%)
② 小中連携校	52校(40%)
計	131校(100%)

注) 学校数は、小中連携又は小中一貫教育を実施している施設一体型の小・中学校を1校として計上

【参考】施設一体型校舎の小中一貫教育、小中連携校の開始年度(校数)



## 【問3-1】小中連携、一貫教育校の設置経緯

小中連携、一貫教育校を設置する経緯(きっかけ)は、どのようなことですか。(複数回答可)

- 1 不登校の増加や学力・学習意欲の低下など中1ギャップの顕在化
- 2 設置者の長(市町村長)の教育方針
- 3 教育長、校長などの教育方針
- 4 地域住民等からの要請
- 5 教育環境の整備(少子化、市町村合併等を契機としたもの)
- 6 その他

● 設置したきっかけについて、小中一貫教育校は「教育長、校長などの教育方針」が43校(54%)、「教育環境の整備(少子化、市町村合併等を契機としたもの)」が39校(49%)となっており、小中連携校は「教育環境の整備(少子化、市町村合併等を契機としたもの)」が33校(63%)となっている。

設置経緯(きっかけ)について、小中一貫教育校、小中連携校ごとの上位の回答。

### ■小中一貫教育校(79校)

①	教育長、校長などの教育方針	43校(54%)
②	教育環境の整備	39校(49%)
③	中1ギャップの顕在化	38校(48%)

### ■小中連携校(52校)

①	教育環境の整備	33校(63%)
②	教育長、校長などの教育方針	16校(31%)
③	中1ギャップの顕在化	12校(23%)

## 【問3-2】 施設一体型校舎の整備理由

小中連携、一貫教育校の校舎を、施設一体型校舎に整備することとなった主な理由は何ですか。(複数回答可)

- 1 ステージ(学年区分)や異学年交流など学習指導上の効果をあげてを重視
- 2 生徒指導上の効果をあげてを重視
- 3 効率的な施設利用を重視
- 4 小・中学校の校舎の老朽改善または耐震化の必要
- 5 地域住民等からの要請
- 6 その他

● 施設一体型校舎の整備理由について、小中一貫教育校は「ステージ(学年区分)や異学年交流など学習指導上の効果をあげてを重視」(87%)が最も多い。小中連携校は「小・中学校の校舎の老朽改善または耐震化の必要」(62%)が最も多い。

整備理由について、小中一貫教育校、小中連携校ごとの上位の回答。

### ■小中一貫教育校(79校)

①	学習指導上の効果	68校(87%)
②	効率的な施設利用	48校(61%)
③	生徒指導上の効果	39校(49%)

### ■小中連携校(52校)

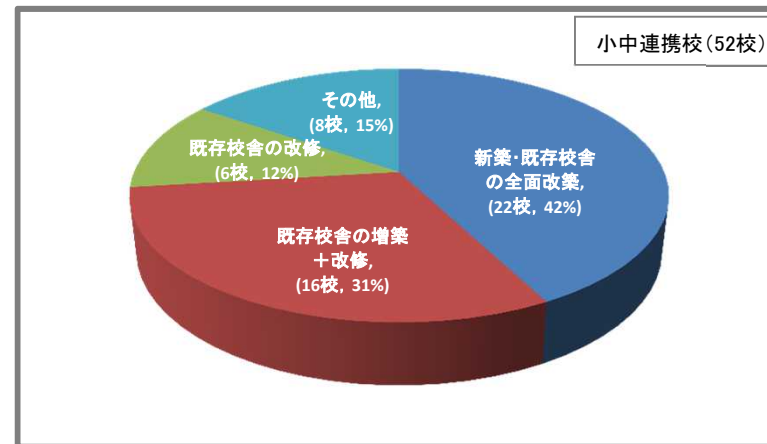
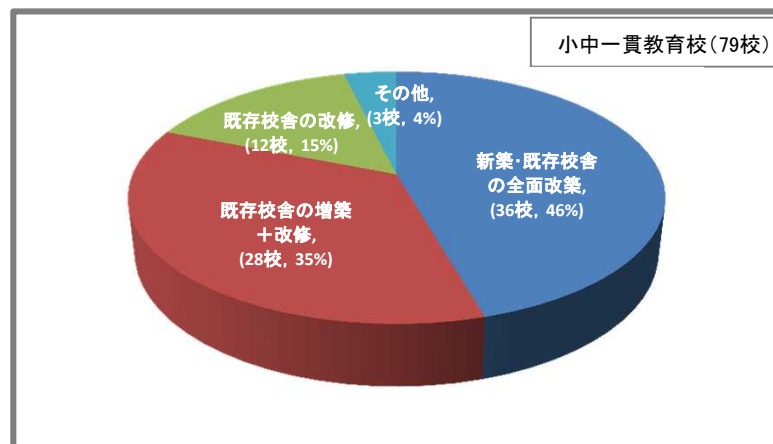
①	校舎の老朽化改善、耐震化	32校(62%)
②	効率的な施設利用	26校(50%)
③	学習指導上の効果	19校(37%)

## 【問3-3】 施設一体型校舎の整備手法

施設一体型校舎の整備手法についてお答えください。

- 1 小中連携、一貫教育の導入に当たり校舎を新築、又は既存校舎を全面改築
- 2 小中連携、一貫教育の導入に当たり既存校舎に増築+改修
- 3 小中連携、一貫教育の導入に当たり既存校舎を改修
- 4 小中連携、一貫教育の導入に当たり施設面での整備は実施していない
- 5 その他

- 施設一体型校舎の整備手法について、小中一貫教育校、小中連携校ともに小中連携、一貫教育の導入に当たり「校舎を新築、又は既存校舎を全面改築」が約4割を占め、「既存校舎の増築+改修」が約3割を占めている。



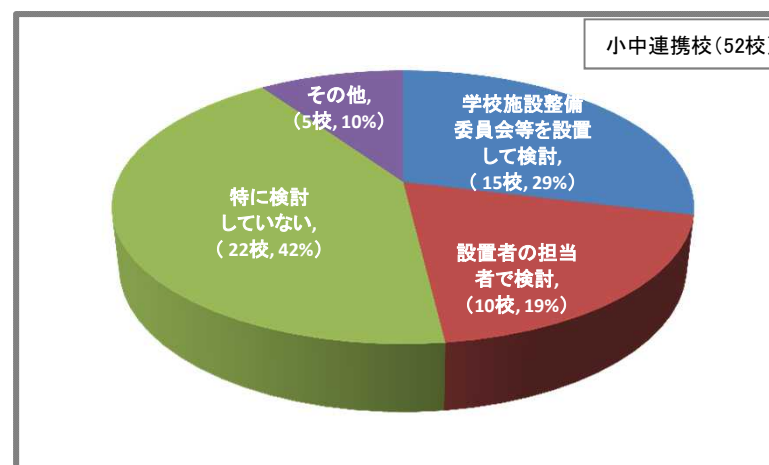
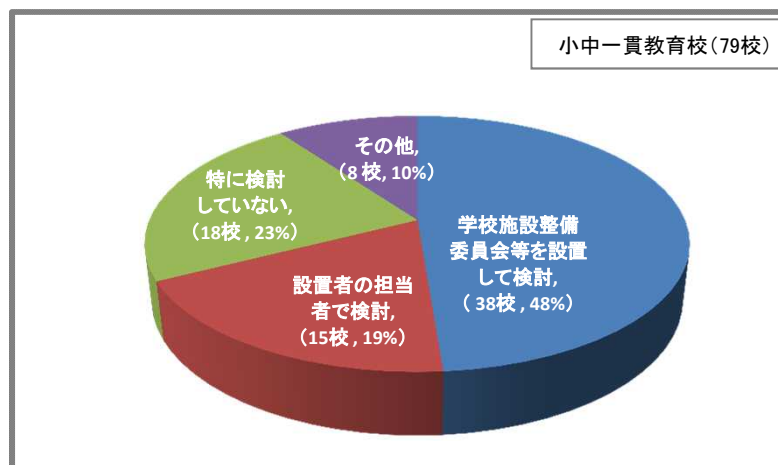
(その他の内訳) 渡り廊下の設置、耐震化のための改築、無回答 など

## 【問4-1】 学校施設整備方針の検討体制

小中連携、一貫教育校の学校施設の整備方針などについて、検討していますか。

- 1 学校施設整備委員会等を設置して検討
- 2 設置者(市町村)の担当で検討
- 3 特に検討していない
- 4 その他

● 整備方針の検討体制について、小中一貫教育校は「学校施設整備委員会等を設置して検討」(38校;48%)が最も多い。小中連携校は「特に検討していない」(22校;42%)が最も多い。



## 【問4-2】 学校施設整備方針の検討メンバー

前の問の1、2と回答された方のみ、お答えください。検討メンバーは誰ですか。(複数回答可)

- 1 教育長    2 市町村長    3 学校教育担当者(設置者)    4 施設担当者(設置者)    5 学校教職員  
6 地域代表者    7 保護者    8 外部有識者(教育関係)    9 外部有識者(建築関係)    10 その他

- 整備方針の検討メンバーについて、小中一貫教育校、小中連携校ともに、「施設担当者(設置者)」、「学校教職員」、「学校教育担当者(設置者)」の参加が多い。特に、半数の小中一貫教育校においては、「地域代表者」、「保護者」の参加がある。

検討メンバーについて、小中一貫教育校、小中連携校ごとの上位の回答。

### ■小中一貫教育校(79校)

①	施設担当者(設置者)	50校(63%)
②	学校教職員	48校(61%)
③	学校教育担当者(設置者)	42校(53%)
④	保護者	40校(51%)
⑤	地域代表者	39校(49%)

### ■小中連携校(52校)

①	学校教育担当者(設置者)	21校(40%)
①	学校教職員	21校(40%)
③	施設担当者(設置者)	20校(38%)
④	保護者	16校(31%)

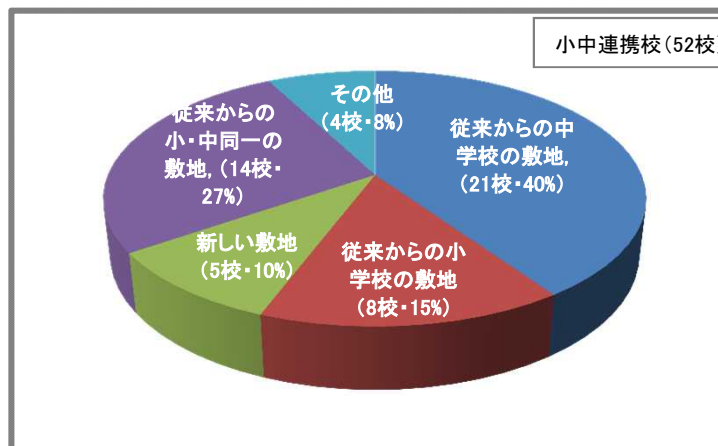
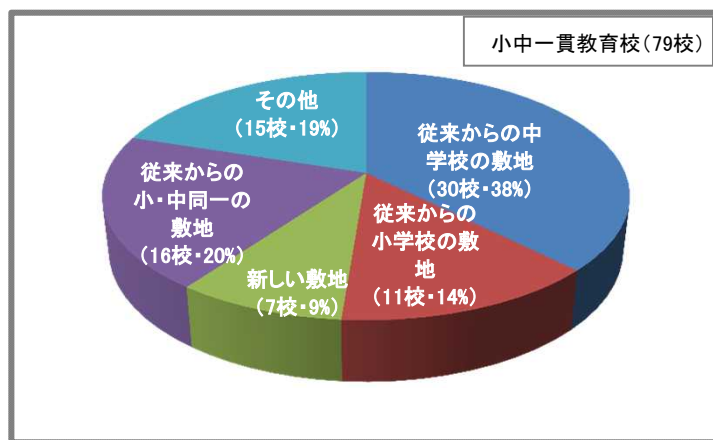


## 【問5】 施設一体型校舎の校地計画

施設一体型校舎の小中連携、小中一貫校の整備は、どのような敷地で整備されましたか。

- 1 従来からの中学校の敷地
- 2 従来からの小学校の敷地
- 3 新しい敷地
- 4 従来からの小・中同一の敷地
- 5 その他

● 校地の選定について、小中一貫教育校、小中連携校ともに、「従来からの中学校の敷地」が約4割を占める。なお、小中一貫教育校における「その他」の内容については、従来からの学校敷地に加え新たな敷地の確保や、隣接する小・中学校の敷地の活用などである。



(その他の内訳) 従来からの学校敷地に加え新たな敷地の購入、隣接する小・中学校の敷地の活用 など

## 【問6-1】 学校運営における小中連携範囲

当該施設一体型校舎で、教育課程、生徒指導、教員交流等の小中連携範囲は、どのように行われていますか。(複数回答可)

- 1 教育課程、生徒指導、教員交流等のほぼ全てで連携
- 2 教育課程上で連携
- 3 生徒指導上で連携
- 4 教員同士の交流により連携
- 5 まったく連携はない

- 小学校、中学校の連携範囲について、小中一貫教育校の約9割、小中連携校の約8割が「教育課程、生徒指導、教員交流等のほぼ全てで連携」と回答している。

学校運営における小中連携範囲について、小中一貫教育校、小中連携校ごとの上位の回答。

### ■小中一貫教育校(79校)

①	教育課程、生徒指導、教員交流等のほぼ全てで連携	72校(91%)
②	教育課程＋教員交流	1校(1%)
②	生徒指導＋教員交流	1校(1%)
④	無回答	5校(6%)

### ■小中連携校(52校)

①	教育課程、生徒指導、教員交流等のほぼ全てで連携	41校(79%)
②	教育課程＋教員交流	2校(4%)
③	教員交流のみ	1校(2%)
③	教育課程＋生徒指導	1校(2%)

## 【問6-2】 施設一体型校舎における運営面での工夫

施設一体型校舎としたことにより、新たな組織の立ち上げや学校間の連携を行うコーディネーターの配置など運営面で工夫された点がありましたらお答えください。また、校内でどのような推進体制を採っているか図示してください。（記述式）

### ■小中一貫教育校（回答:53校）

#### 【推進体制】

- ・小中一貫教育推進委員会の開催、校長一人制に伴う総括的教頭の配置 等
- ・校長1名の下、教頭3名が連携を取りながら小中各々の在籍校に関係なく柔軟に対応
- ・課題に応じたプロジェクト組織の設置
- ・小中のつなぎ役として総括教頭の配置
- ・小中各教務主任がコーディネーターを担っている

#### 【校務分掌】

- ・校務分掌を小中合同で作成し、一つの分掌に小中両方の教員を配置
- ・教務部・研究進路部・生徒指導部等を全て小中共通の分掌とし、小中両方の教員が所属
- ・職員室、保健室の機能の一本化、教務主任、研究主任の連携、研究部会の一元化

#### 【その他】

- ・校長が一人であり、学校方針が統一されている。また職員室が同じであることで連携がスムーズに行える
- ・PTAや学校評議員などを小中一本化している

### ■小中連携校（回答:19校）

#### 【推進体制】

- ・小中連携運営委員会の設置
- ・教務主任がコーディネーターの役割を果たしている
- ・小中全ての教員に兼務発令を行った

#### 【校務分掌】

- ・小中合同の部会を組織して共通理解を図りながら連携

#### 【その他】

- ・PTA組織を小中学校一体化

## 【問7-1】 学年区分(ステージ)

校舎の教室の配置計画、ステージ(学年区分)は、どのようにしていますか。

- 1 4+3+2
- 2 3+4+2
- 3 5+4
- 4 6+3
- 5 その他

● 学年区分(ステージ)について、小中一貫教育校は「4+3+2」が54校(68%)、「6+3」が17校(22%)という順である。小中連携校は「6+3」が47校(90%)である。

学年区分について、小中一貫教育校、小中連携校ごとの回答。

### ■小中一貫教育校(79校)

①	4+3+2	54校(68%)
②	6+3	17校(22%)
③	5+4	2校(3%)
④	3+4+2	1校(1%)
⑤	その他	5校(6%)

### ■小中連携校(52校)

①	6+3	47校(90%)
②	4+3+2	5校(10%)

(その他の内訳) 4+2+3:3校、2+2+2+3:1校、2+7:1校

## 【問7-2】 学年区分(ステージ)に関する施設画上的配慮

前の問で回答したステージ(学年区分)にしたことにより、施設画上的配慮したことについてお答えください。(記入例:学年区分のまとまりを生むようオープンスペースを整備、各ステージで普通教室の設えを変えた など)(記述式)

学年区分	小中一貫教育校(79校)
4+3+2 (54校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年区分のまとまりを生むよう小6と中1の普通教室を隣接した位置に配置</li> <li>・普通教室は小中別々であるが、特別教室を小学校側に多く配置し、自然に小中の交流が生まれるようにしている</li> <li>・学年区分ごとに同じ階に教室を配置</li> <li>・学年区分のまとまりを生むようなスペースとして、オープンスペースを設置</li> <li>・9学年の児童生徒と小中教員の交流を促すふれあいホールとオープンな職員室を整備</li> <li>・校舎中央に交流スペースを整備、図書室・特別教室などの共有空間を整備</li> <li>・ステージごとに1フロアを充当</li> <li>・学年区分でのあつまりを重視して、交流学習室を設置</li> <li>・低学年が使用する図書室を新たに整備</li> <li>・特別教室棟を増築し、既存の特別教室を普通教室に改修し、学年区分ごとにまとまるよう教室を配置</li> <li>・学年区分ごとに児童生徒用玄関を設置</li> <li>・異学年で交流できる中庭を設置</li> </ul>
5+4 (2校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2, 3階に9学年を分ける際に、5, 6年生は中学生のフロアに配置</li> </ul>
6+3 (17校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員室は中学校の既存職員室としたため、小学校の職員室を教師待機室とした</li> <li>・中間に交流を行える教室などを配置</li> <li>・学年区分のまとまりを生むようオープンスペースを整備</li> <li>・1, 2階に小学部、3階に中学部の教室を配置。小学生に対応するため、階段段差の改修を行った</li> </ul>
その他 (5校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部の間に中学部を配置</li> <li>・教育課程に合わせたゾーニングとした</li> <li>・ステージごとに昇降口を設置</li> <li>・中学校校舎を普通教室・管理棟、小学校校舎を特別教室棟として使用</li> </ul>

学年区分	小中連携校(52校)
4+3+2 (5校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年区分ごとにまとまるように普通教室を配置</li> <li>・学年区分ごとにまとまりを生むようなオープンスペースの整備</li> <li>・教室の間仕切りを可動にし、様々な教育形態に対応できるように工夫</li> </ul>
6+3 (47校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の中学校校舎を使用しているため、特別教室を縮小し、普通教室を増やした</li> <li>・小学校では、学年区分のまとまりを生むようオープンスペースを整備</li> <li>・同一校舎内の東側を小学校棟、西側を中学校棟とし、両校を結ぶ南北校舎に共用教室、交流スペースなどを設け、小中連携授業や交流を実施</li> <li>・普通教室棟は、1, 2階が小学生、3階が中学生となるよう配置</li> <li>・普通教室を一つの棟にまとめ、可能な特別教室は共有とした</li> <li>・小中のステージで分けて教育活動を行うため、小・中で区分。一方、まとまりを生む場面も必要なことから、体育館・武道館の共有スペースにゆとりを持たせた</li> <li>・体格の違う児童生徒が共通に利用する特別教室は、可変の机・椅子を使用</li> <li>・校長室、職員室は小学校、中学校別になっている</li> <li>・小中学校のスムーズな接続を考慮し、小学校5, 6年生の普通教室を中学校校舎に配置</li> <li>・理科室は小学校、中学校別に整備</li> <li>・異学年との交流を深めるためのランチルームを整備し、全員で給食を食べる</li> <li>・2棟ある校舎を、小学棟と中学棟に分けて使用</li> </ul>

## 【問8-1】小・中学校で共有化を図った施設(室)

施設一体型校舎としたことで、小・中学校または低・高学年等で共有化を図った施設(小学校と中学校でそれぞれ専用の音楽教室がある場合などは該当しません。)は、どれですか。(複数回答可)

- 1 校長室 2 職員室 3 音楽教室 4 英語教室 5 理科教室 6 図工教室 7 技術教室 8 家庭教室  
 9 図書室 10 ランチルーム 11 多目的教室 12 保健室 13 特別支援教室 14 給食室  
 15 昇降口・玄関 16 多目的スペース 17 トイレ 18 体育館 19 グラウンド 20 プール 21 地域連携室  
 22 教育相談室 23 視聴覚室 24 コンピュータ室 25 複合施設(複合施設名:地域図書館、文化ホールなど)  
 26 その他

- 共有化を図った施設(室)について、小中一貫教育校は「職員室」(90%)、「家庭教室」(77%)、「校長室」(75%)という順が多い。小中連携校は「職員室」(71%)、「図書室」(71%)、「グラウンド」(69%)という順が多い。

共有化を図った施設(室)について、小中一貫教育校、小中連携校ごとの上位の回答。

### ■小中一貫教育校(79校)

① 職員室	71校(90%)
② 家庭教室	61校(77%)
③ 校長室	59校(75%)
④ 昇降口・玄関	56校(71%)
⑤ 図書室	55校(70%)
⑤ グラウンド	55校(70%)

### ■小中連携校(52校)

① 職員室	37校(71%)
① 図書室	37校(71%)
③ グラウンド	36校(69%)
④ コンピュータ室	35校(67%)
⑤ 家庭教室	33校(63%)

# 【問8-2】小・中学校で共有化した施設(室)での実施教科

前の問で、小・中共有化を図ったと回答された施設において、それぞれどのような教科が実践されていますか。共有化を図った施設の番号と教科を具体的に記入ください。(記入例：小学校の教科：11 算数…)

小学校の教科：

中学校の教科：

- 共有化した特別教室や体育施設において、どのような学習が行われているかを、小中一貫教育校、小中連携校別に整理。
- 共有化の割合が高い施設のうち、家庭教室、音楽教室、体育館、グラウンド、プールでは各々の教科(家庭科、音楽、体育)の授業が実施されており、コンピュータ室、図書室、多目的教室では、複数の教科が実施されている。

小中一貫教育校(79校)

実施教科	共有化室(小学校)														共有化室(中学校)														中学校計 (重複含む)	
	音楽教室	英語教室	理科教室	図工教室	技術教室	家庭教室	コンピュータ室	図書室	ランチルーム	多目的スペース	体育館	グラウンド	プール	その他	音楽教室	英語教室	理科教室	図工教室	技術教室	家庭教室	コンピュータ室	図書室	ランチルーム	多目的スペース	体育館	グラウンド	プール	その他		
	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)		
国語							1	12		1				2	16													2	17	
算数(数学)									4					8	7													3	8	
理科			26				2	5						33		24													30	
英語		7												1	8	6													7	
音楽	33		1											34	30													1	31	
図工(美術)				27	13			1						2	43	25	1												1	29
家庭・技術						44								44		1	12	41	8	1	1									84
体育														32	29	19											32	29	21	83
総合学習							9	5		5	3																		23	
合計(重複含む)	33	7	27	27	13	44	12	23	0	10	3	32	29	19	8														22	

- 凡例
- : 多くの共有化室で実施される教科
  - : 多くの教科が実施される共有化室
  - : 共有化の割合が高い施設での実施割合の高い教科

小中連携校(52校)

実施教科	共有化室(小学校)														共有化室(中学校)														中学校計 (重複含む)	
	音楽教室	英語教室	理科教室	図工教室	技術教室	家庭教室	コンピュータ室	図書室	ランチルーム	多目的スペース	体育館	グラウンド	プール	その他	音楽教室	英語教室	理科教室	図工教室	技術教室	家庭教室	コンピュータ室	図書室	ランチルーム	多目的スペース	体育館	グラウンド	プール	その他		
	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)	(重複含む)		
国語																														9
算数(数学)																														3
理科			11																											13
英語		1																												1
音楽	20																													23
図工(美術)				14	4																									12
家庭・技術																														37
体育																														39
総合学習																														19
合計(重複含む)	20	1	11	14	4	23	23	13	0	3	0	22	24	20	1														119	

- 凡例
- : 多くの共有化室で実施される教科
  - : 多くの教科が実施される共有化室
  - : 共有化の割合が高い施設での実施割合の高い教科



## 【問8-3】 新たに追加したスペース

施設一体型校舎としたことで、新たに追加されたスペースや施設・設備は何ですか。(複数回答可)

- 1 小・中の児童生徒の異学年交流スペース
- 2 地域・保護者の方々の交流スペース
- 3 複合施設(複合施設名:地域開放プール、図書館など)
- 4 その他

● 新たに追加されたスペースや施設・設備について、小中一貫教育校、小中連携校ともに、「小・中の児童生徒の異学年交流スペース」、「地域・保護者の方々の交流スペース」という順に多い。

新たに追加したスペースについて、小中一貫教育校、小中連携校ごとの回答。

### ■小中一貫教育校(79校)

①	小・中児童生徒の異学年交流スペース	35校(44%)
②	地域・保護者の方々の交流スペース	17校(22%)
③	複合施設	8校(10%)
④	その他	14校(18%)

### ■小中連携校(52校)

①	小・中児童生徒の異学年交流スペース	13校(25%)
②	地域・保護者の方々の交流スペース	10校(19%)
③	複合施設	5校(10%)
④	その他	5校(10%)

(その他の内訳) 少人数教室、国際教育室、多目的スペース(兼 交流スペース)、教師ステーション、渡り廊下、通学バス回転広場 など

## 【問8-4】 特別支援学級(教室)の配置計画

特別支援学級(教室)は、どのように配置していますか。

- 1 学年ごと別の場所に配置
- 2 学年区分(ステージ)ごと別の場所に配置
- 3 小学校と中学校ごと別の場所に配置
- 4 9年間一貫して一か所に配置
- 5 その他

● 特別支援学級(教室)の配置について、小中一貫教育校、小中連携校ともに、「小学校と中学校ごと別の場所に配置」が最も多いが、小中一貫教育校では「9年間一貫して一か所に配置」が2割を占めている。

特別支援学級(教室)の配置計画について、小中一貫教育校、小中連携校ごとの上位の回答。

### ■小中一貫教育校(79校)

①	小学校と中学校ごと別の場所に配置	37校(47%)
②	9年間一貫して一か所に配置	16校(20%)
③	その他	11校(14%)

### ■小中連携校(52校)

①	小学校と中学校ごと別の場所に配置	36校(69%)
②	学年ごと別の場所に配置	4校(8%)
③	9年一貫して一か所に配置	2校(4%)

(その他の内訳) 障害種別に配置、小学校のみに配置、今は整備していない など

## 【問8-5】異学年交流を行う施設(室)

小・中異学年交流は、主にどの施設で行われますか。(複数回答可)

- 1 校長室 2 職員室 3 音楽教室 4 英語教室 5 理科教室 6 図工教室 7 技術教室 8 家庭教室  
 9 図書室 10 ランチルーム 11 多目的教室 12 保健室 13 特別支援教室 14 昇降口・玄関  
 15 多目的スペース 16 トイレ 17 体育館 18 グラウンド 19 プール 20 地域連携室 21 教育相談室  
 22 視聴覚室 23 コンピュータ室 24 複合施設(複合施設名:地域図書館、文化ホールなど) 25 その他

- 異学年交流を行う施設(室)について、小中一貫教育校、小中連携校ともに「体育館」、「グラウンド」が7割以上を占める。

異学年交流を行う施設(室)について、小中一貫教育校、小中連携校ごとの上位の回答。

### ■小中一貫教育校(79校)

①	体育館	64校(81%)
②	グラウンド	57校(72%)
③	多目的教室	35校(44%)
④	ランチルーム	33校(42%)
④	多目的スペース	33校(42%)

### ■小中連携校(52校)

①	グラウンド	40校(77%)
②	体育館	39校(75%)
③	図書館	19校(37%)
③	ランチルーム	19校(37%)
⑤	多目的スペース	13校(25%)

# 【問8-6】意図的に異学年交流を行う施設(室)と内容

前の問で、回答されたもののうち、授業等の一環として、意図的に小・中異学年交流を行う施設等があれば、上記施設の番号と異学年交流の内容をご記入ください。(記入例：10 交流給食・・・)(複数回答可)

- 異学年交流を行う施設(室)について、小中一貫教育校、小中連携校別に整理。
- 異学年交流の内容で多いのは、学校行事(運動会等)、交流給食、総合学習等であり、交流が行われることの多い施設は、体育館、グラウンド、ランチルーム、多目的スペース、多目的教室である。

小中一貫教育校(79校)

交流授業・行事等	異学年交流室													合計 (重複含む)		
	音楽教室	英語教室	理科教室	図工教室	技術教室	家庭教室	図書室	ランチルーム	多目的教室	特別支援教室	多目的スペース	体育館	グラウンド		プール	総合施設
英語								1								1
音楽	1															1
体育									1		3	3		1		8
図工(美術)				1												1
調理実習																0
総合学習	1			1	1	1		2	1	2	2	1				12
読み聞かせ(読書)						5										5
交流給食							25		1	2	1					29
委員会活動								1		1	2	1				7
部活動	1								1	1	2					5
学校行事(運動会等)								2		1	16	17			1	37
特別活動										2	1	1				4
発表会										1	2					3
合計(重複含む)	3	0	0	1	1	1	6	25	6	3	10	28	25	1	0	3

凡例  
 : 意図的に異学年交流が行われることの多い教科・活動・行事  
 : 意図的に異学年交流が行われることの多い施設

小中連携校(52校)

交流授業・行事等	異学年交流室													合計 (重複含む)		
	音楽教室	英語教室	理科教室	図工教室	技術教室	家庭教室	図書室	ランチルーム	多目的教室	特別支援教室	多目的スペース	体育館	グラウンド		プール	総合施設
英語																0
音楽													1			1
体育													2			2
図工(美術)																0
調理実習						1										1
総合学習	1		1				1	3		3	3	1				13
読み聞かせ(読書)								1								2
交流給食								10		1						12
委員会活動								1	1		1	1				4
部活動																0
学校行事(運動会等)	1										11	18			1	31
特別活動											1	1				2
発表会									1		1	4				7
合計(重複含む)	2	0	1	0	0	1	1	11	6	0	5	21	23	0	1	3

凡例  
 : 意図的に異学年交流が行われることの多い教科・活動・行事  
 : 意図的に異学年交流が行われることの多い施設

## 【問8-7】 地域交流を行う施設(室)

地域・保護者の方々と児童生徒・教員等との交流、地域・保護者の方々同士の交流は、主にどの施設で行われていますか。(複数回答可)

- 1 校長室 2 職員室 3 音楽教室 4 英語教室 5 理科教室 6 図工教室 7 技術教室 8 家庭教室  
 9 図書室 10 ランチルーム 11 多目的教室 12 保健室 13 特別支援教室 14 昇降口・玄関  
 15 多目的スペース 16 体育館 17 グラウンド 18 プール 19 地域連携室 20 教育相談室  
 21 視聴覚室 22 コンピュータ室 23 複合施設(複合施設名:地域図書館、文化ホールなど) 24 その他

- 地域交流を行う施設(室)について、小中一貫教育校、小中連携校ともに「体育館」、「グラウンド」が概ね5割以上を占める。  
 次に多いのが「多目的教室」、「多目的スペース」、「ランチルーム」である。

地域交流を行う施設(室)について、小中一貫教育校、小中連携校ごとの上位の回答。

### ■小中一貫教育校(79校)

①	体育館	53校(67%)
②	グラウンド	39校(49%)
③	多目的教室	28校(35%)
④	ランチルーム	23校(29%)
⑤	多目的スペース	21校(27%)

### ■小中連携校(52校)

①	体育館	33校(63%)
②	グラウンド	26校(50%)
③	多目的スペース	15校(29%)
④	ランチルーム	14校(27%)
④	多目的教室	14校(27%)

## 【問8-8】部活動の円滑な実施のための施設面での工夫

部活動を円滑に行うため、体育館やグラウンド等の整備において工夫した点がありましたら、ご記入ください。(記入例：時間割の上ではグラウンドを共有化できたが、部活動を考慮し、小グラウンドを整備した など)(記述式)

### ■小中一貫教育校 (回答:47校)

#### (体育施設の整備)

- ・小学校用の野球場と200mトラックを新たに整備
- ・体育館を共有化することを検討したが、中学校の部活動を考慮して新たに小学校用の体育館を整備

#### (体育設備の整備)

- ・体育館を分割して利用するため、間仕切りネットを設置
- ・既存の体育館を利用するため、可動式のバスケットゴールを設置

#### (地域施設の利用)

- ・町の体育館を校舎と接続し、中学校の体育の授業、小中の部活動で使用

#### (第二グラウンド等の整備)

- ・時間割の上ではグラウンドを共有化できたが、部活動を考慮して小グラウンドを整備
- ・放課後は中学生の部活動のため、小学校体育館を開放
- ・屋内運動場内にサブスペースを設置
- ・第二グラウンドにおいて、野球場やテニスコートを整備
- ・体育館、グラウンド、プールは、旧中学校の施設を使用
- ・狭隘な敷地に対応するため、体育館上部に人工地盤の運動場を整備するとともに、旧小学校跡地に第二グラウンドを整備

### ■小中連携校 (回答:17校)

#### (体育施設の整備)

- ・小学校と中学校のグラウンドを別々に整備
- ・中学校の整備に伴い、小学校グラウンドを拡張
- ・時間割の上ではグラウンドを共有化できたが、部活動を考慮して小グラウンドを整備

#### (体育設備の整備)

- ・体育館を分割して利用するため、間仕切りネットを設置

#### (地域施設の利用)

- ・地域の体育館、グラウンドを使用

#### (第二グラウンド等の整備)

- ・校舎は一体型で建設したが、体育館及びグラウンドは、既存の施設を利用
- ・部活動を考慮して中学校武道場屋上にテニスコートを整備

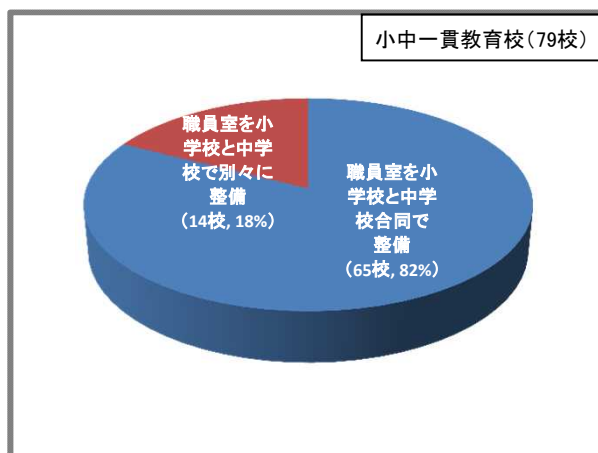
## 【問9】 職員室の座席配置

職員室の座席は、どのように配置していますか。

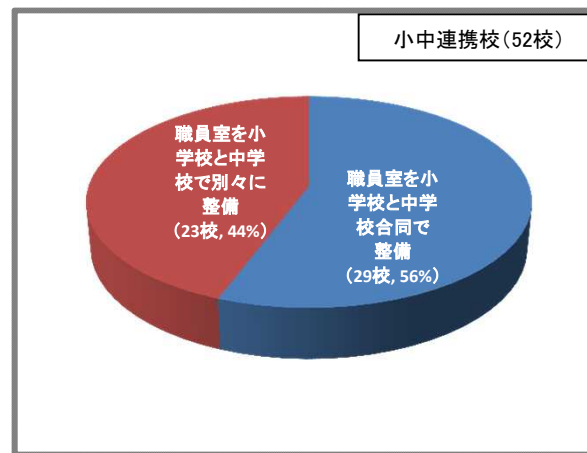
- 1 校務分掌をもとに配置
- 2 学年区分(ステージ)担当ごとに配置
- 3 小学校、中学校担当ごとに配置
- 4 教科担当ごとに配置
- 5 その他

- 「職員室を合同で整備」について、小中一貫教育校は65校(82%)、小中連携校は29校(56%)となっている。
- このうち、座席配置について、小中一貫教育校は「学年区分担当ごとに配置」(66%)、「小・中担当ごとに配置」(32%)、小中連携校は「小・中担当ごとに配置」(79%)、「学年区分担当ごとに配置」(21%)となっている。

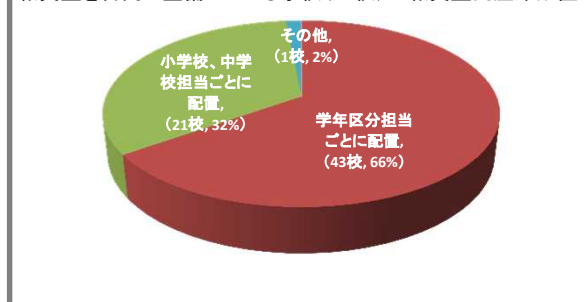
【小中一貫教育校】



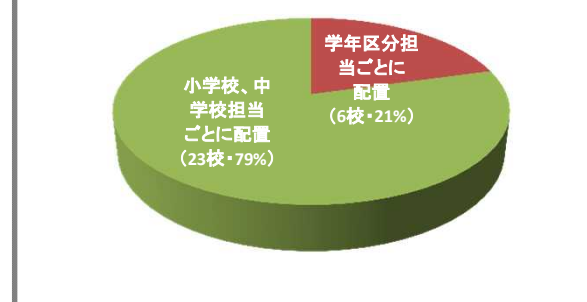
【小中連携校】



職員室を合同で整備している学校(65校)の職員室内座席配置



職員室を合同で整備している学校(29校)の職員室内座席配置



## 【問10】 施設一体型校舎の教育上の効果

施設一体型校舎としたことによる教育上の効果についてお答えください。(複数回答可)

- 1 不登校の増加や学力・学習意欲の低下など中一ギャップの減少
- 2 小・中の児童生徒の交流機会の増加
- 3 小・中の教員間の連携や交流の機会の増加
- 4 児童生徒の学習意欲の向上
- 5 その他

- 施設一体型校舎の教育上の効果について、小中一貫教育校、小中連携校ともに「小・中の児童生徒の交流機会の増加」、「小・中の教員間の連携や交流の機会の増加」が概ね9割以上を占める。特に、小中一貫教育校においては、「中1ギャップの減少」が約7割を占める。

教育上の効果について、小中一貫教育校、小中連携校ごとの回答。

### ■小中一貫教育校(79校)

① 小・中の児童生徒の交流機会の増加	74校(94%)
② 小・中の教員間の連携・交流機会の増加	72校(91%)
③ 中1ギャップの減少	53校(67%)
④ 児童生徒の学習意欲の向上	38校(49%)
⑤ その他	9校(11%)

### ■小中連携校(52校)

① 小・中の教員間の連携・交流機会の増加	50校(96%)
② 小・中の児童生徒の交流機会の増加	46校(88%)
③ 中1ギャップの減少	29校(56%)
④ 児童生徒の学習意欲の向上	17校(33%)
⑤ その他	5校(10%)



## 【問11-1】 施設一体型校舎を整備した際の課題

当該施設一体型校舎を整備した際に生じた問題点等がありましたら、どのように解決されたかも含め、ご記入ください。(記述式)

小中一貫教育校 (回答:44校)

### 【施設設計上の課題】

- ・階段・洗面台・トイレの高さ
- ・児童生徒の体格差が広がるため、可動式の備品等を採用
- ・プールの安全対策
- ・小中の中間に配置する機能(交流スペース、管理諸室)をどの程度盛り込むかの検討

### 【施設計画プロセス上の課題】

- ・既存の校舎・敷地をいかに残すかということについて、方針の決定に時間を要した

### 【施設利用上の課題】

- ・小学生の声、音が気になる

### 【運営上の課題】

- ・中学校教員による小学校の授業の時間割設定
- ・中学1年生、2年生の幼稚化
- ・学年による授業時間の違い
- ・特別教室、グラウンド・アリーナの使用調整
- ・授業時間が違うことによるチャイムの設定 等

小中連携校 (回答:20校)

### 【施設設計上の課題】

- ・水道の蛇口の高さが小学生には高すぎたため、踏み台を置くことで対応
- ・元々、中学校校舎であり、小学校低学年には階段の高さが高いため、手すりを設置
- ・小学生は中学生より帰宅時間が早いため、小学生の教室を昇降口近くに配置

### 【施設利用上の課題】

- ・小学校と中学校の時程が相違するため、チャイムや放送に配慮が必要

### 【運営上の課題】

- ・授業で使用する共有施設の割り当てが難しい
- ・小学校教員と中学校教員の意識のずれが問題 等

## 【問11-2】 今後の施設一体型校舎を整備する際の課題

今後、施設一体型校舎を整備する際の課題は、何だと思いませんか、ご自由にご記入ください。(記述式)

小中一貫教育校 (回答:62校)

### 【施設設計上の課題】

- ・児童生徒の成長に対応した設計
- ・洗面台、ロッカー、黒板の高さや階高
- ・保健室、教育相談室は小中学生の発達段階に応じて別々がよい
- ・教材等の収納スペースの確保
- ・異学年交流スペースの整備
- ・学級数の増加に対応できる将来を見据えた整備
- ・小中の教職員が一緒に作業、研修等ができる校務センターが必要

### 【施設計画プロセス上の課題】

- ・現場との連携を行い、利用者の意見を十分に取入れた学校作り
- ・関係者協議の時間を十分にとること
- ・9年間の教育をどのように進めていくかという構想の下に、整備を進めていくことが必要

### 【施設利用上の課題】

- ・授業時間差による動線計画
- ・放課後に体育館で中学生がクラブ活動をしているので、小学生が使えない

### 【運営上の課題】

- ・教職員の意識改革
- ・授業時間差によるチャイムの設定 等

小中連携校 (回答:25校)

### 【施設設計上の課題】

- ・小中学校で共有できるスペースの拡充と整備
- ・子供の動線を意識した校舎の設計
- ・授業や部活に支障のないグラウンドの広さの確保

### 【施設計画プロセス上の課題】

- ・校舎整備にあたり、実施設計段階での十分な協議

### 【施設利用上の課題】

- ・時間割などの管理するソフトなど、運営面と合わせる必要がある

### 【運営上の課題】

- ・教職員の意識のずれ
- ・保護者・地域の理解
- ・小中が単独で行う行事を減らす 等

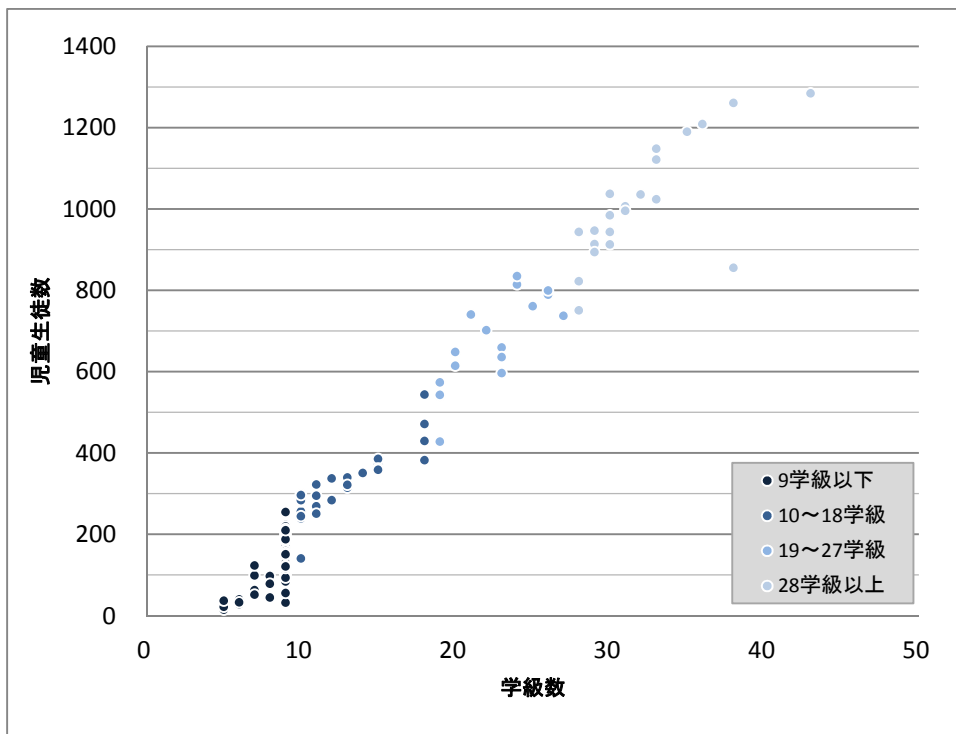
## 2. 施設一体型校舎の学校規模の観点からの集計

# 【1】 施設一体型校舎：学校規模と児童生徒数

施設一体型校舎(131校)について、学校規模(学級数)と児童生徒数との関係を分析

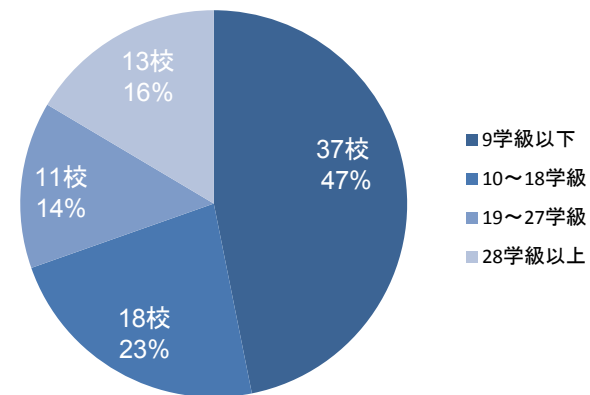
● 約半数の66校(50%)が9学級以下となっている。

■ 学級数と児童生徒数

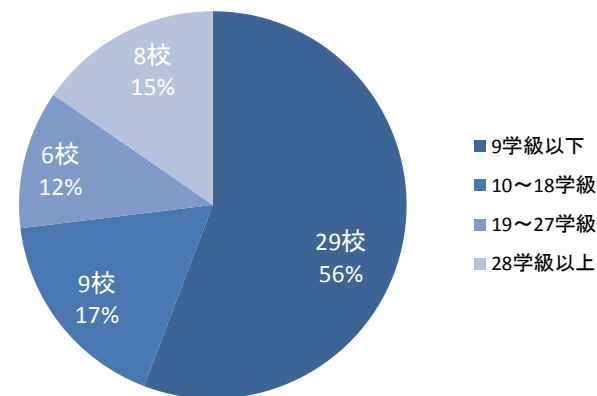


分類	校数			児童生徒数 平均
	小中一貫	小中連携	小中一貫	
9学級以下	66校	37校	29校	116人
10～18学級	27校	18校	9校	322人
19～27学級	17校	11校	6校	671人
28学級以上	21校	13校	8校	1013人
計	131校	79校	52校	

□ 小中一貫教育校の場合(79校)



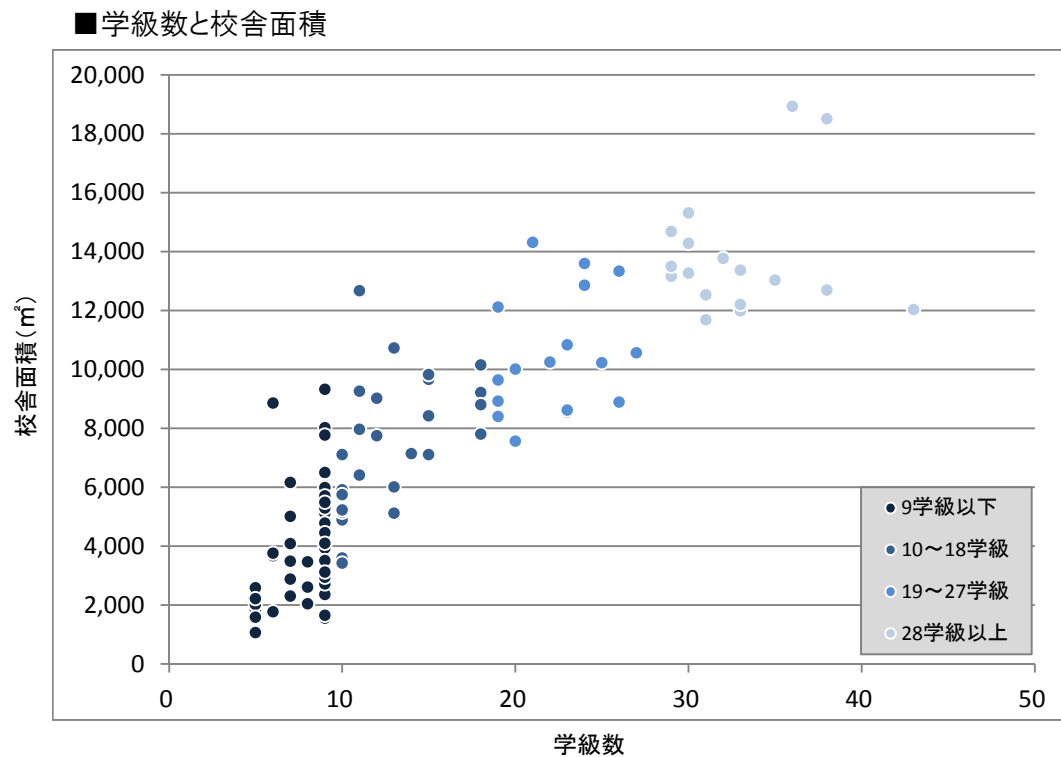
□ 小中連携校の場合(52校)



## 【2】 施設一体型校舎：学校規模と校舎面積との関係

施設一体型校舎(131校)について、学校規模(学級数)と校舎面積との関係を分析。

- 校舎面積については、学校規模に比例して大きくなっている。

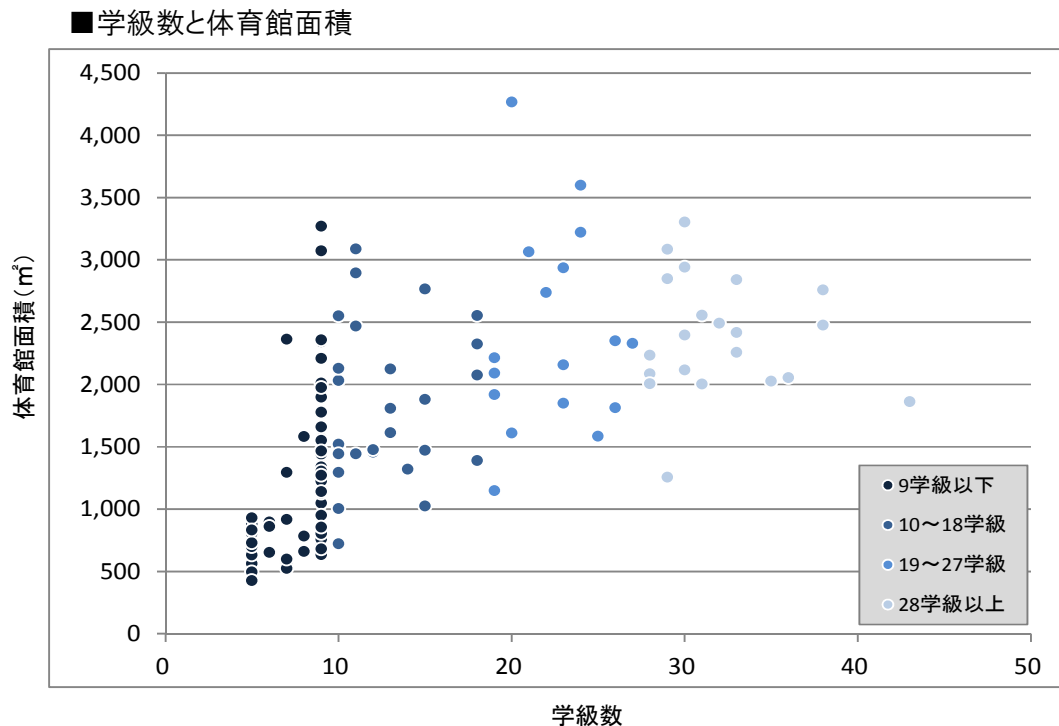


分類	校数	校舎面積平均
9学級以下	66校	4,035㎡
10~18学級	27校	7,401㎡
19~27学級	17校	10,509㎡
28学級以上	21校	13,668㎡
計	131校	

### 【3】 施設一体型校舎：学校規模と体育館面積との関係

施設一体型校舎(131校)について、学校規模(学級数)と体育館面積との関係を分析。

- 体育館面積については、学校規模に比例して緩やかに大きくなっているが、19学級以上の学校では、面積が横ばいとなる。校舎面積と比較して、面積の差が大きい。

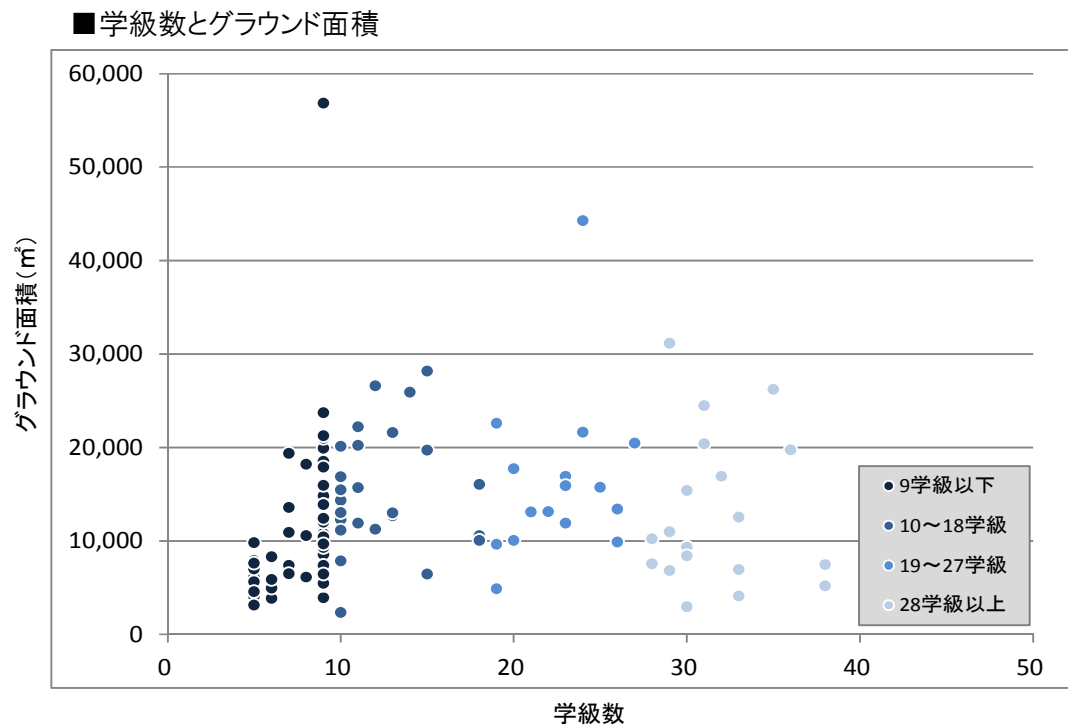


分類	校数	体育館面積平均
9学級以下	66校	1,195㎡
10～18学級	27校	1,772㎡
19～27学級	17校	2,405㎡
28学級以上	21校	2,382㎡
計	131校	

## 【4】 施設一体型校舎：学校規模とグラウンドとの関係

施設一体型校舎について、学校規模(学級数)と体育館面積、グラウンド面積との関係を分析。

- グラウンド面積については、学校規模にかかわらず面積は横ばいである。27学級を超える学校では、27学級以下の学校と比較して、グラウンド面積の平均値が下回っている。



分類	校数	グラウンド面積 平均
9学級以下	66校	10,866㎡
10～18学級	26校	15,233㎡
19～27学級	17校	16,707㎡
28学級以上	20校	12,689㎡
計	129校	※面積が不明の2校除く

### 3. 施設一体型校舎の整備手法の観点からの集計

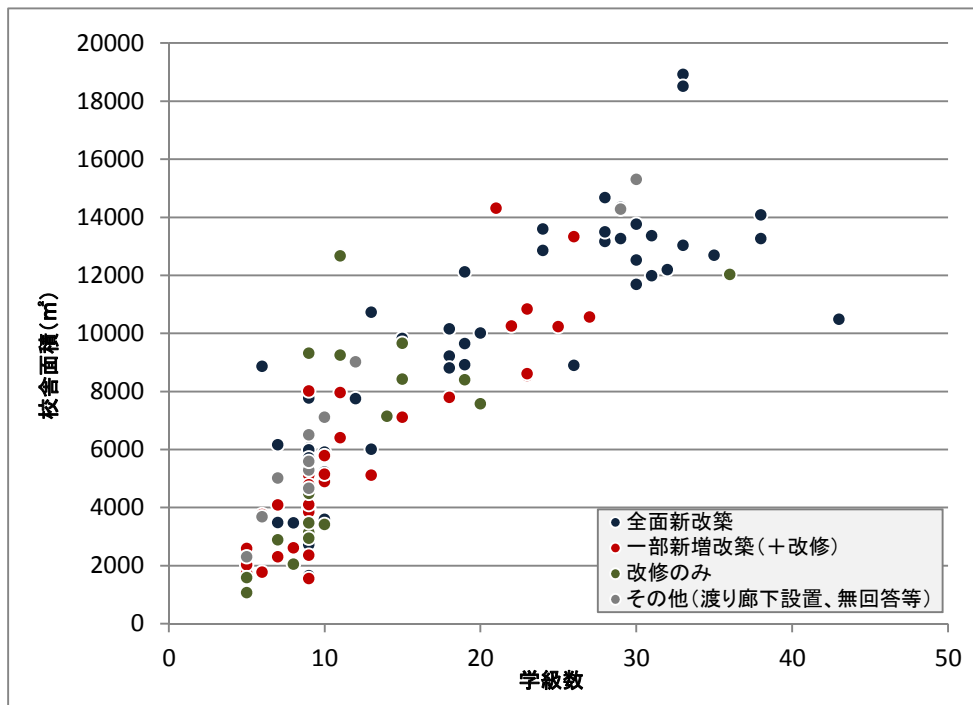


# 【1】 施設一体型校舎：整備手法①

施設一体型校舎について、整備手法別に学校規模(学級数、校舎面積)の関係を分析。

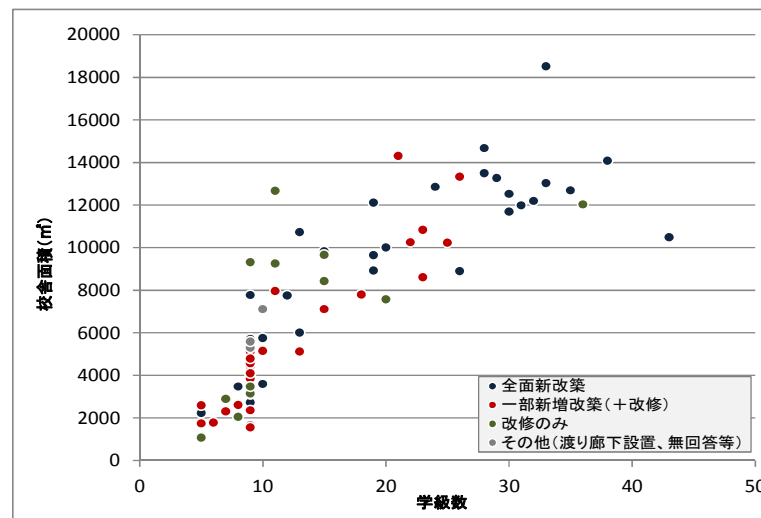
- 58校(44%)が全面的な新改築を行っており、次いで44校(34%)が既存校舎に新增改築又は改修を行っている。
- 27学級を超える学校では全面新改築が多いが、27学級以下の学校では学校規模と整備手法に相関はない。

■ 整備手法別の学級数と校舎面積

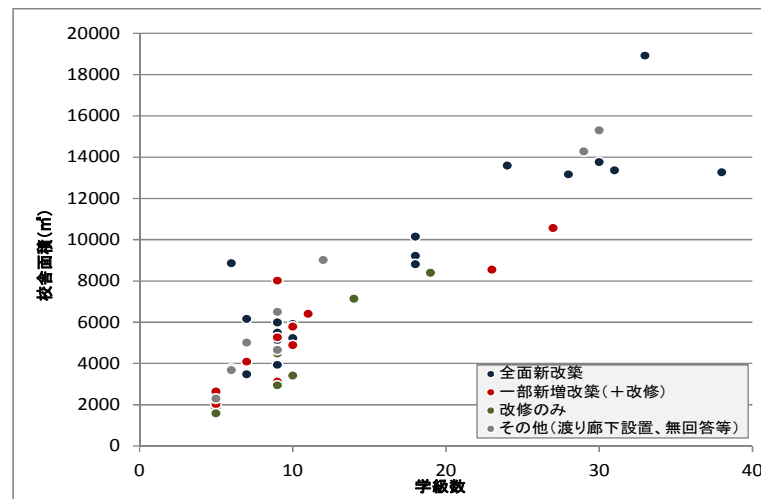


分類	学校数	小中一貫	小中連携
全面新改築	58校	36校	22校
一部新增改築(+改修)	44校	28校	16校
改修のみ	18校	12校	6校
その他(渡り廊下設置、無回答等)	11校	3校	8校
計	131校	79校	52校

□ 小中一貫教育校の場合(79校)



□ 小中連携校の場合(52校)

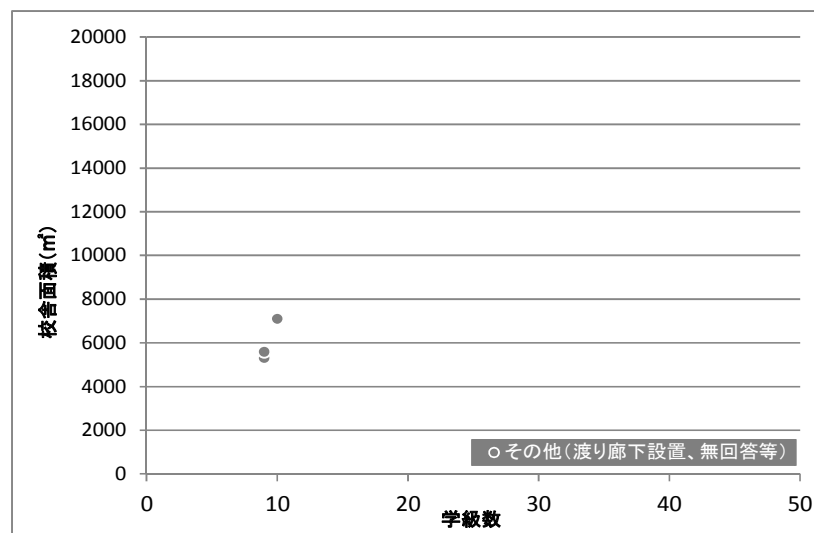
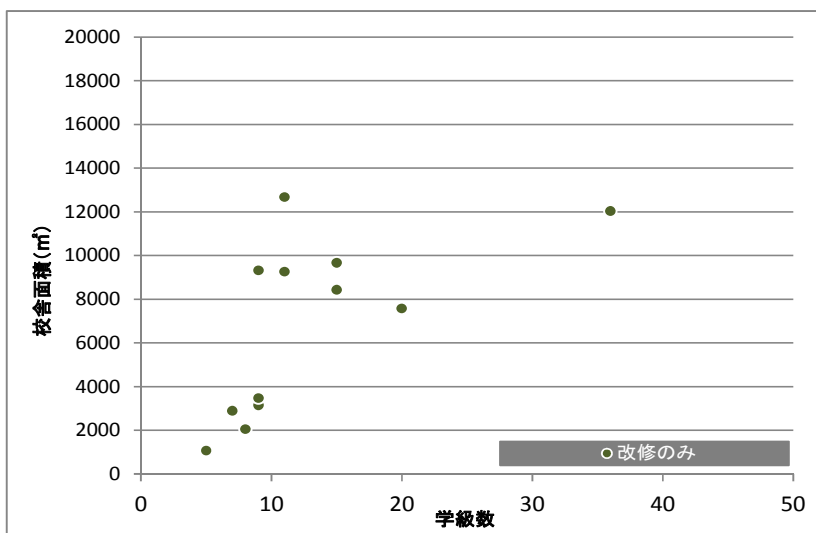
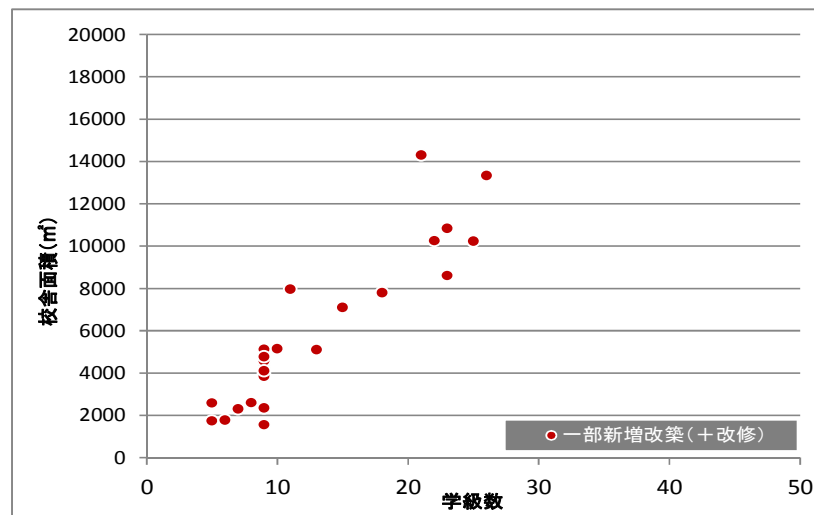
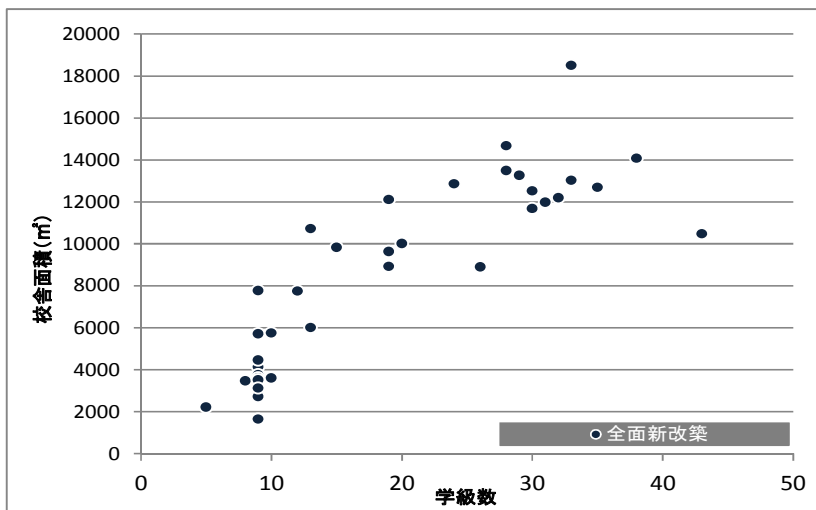


## 【2】 施設一体型校舎：整備手法②

施設一体型校舎の小中一貫校(79校)について、整備手法別に学校規模(学級数、校舎面積)との関係を分析。

- 全面新改築や一部新增改築は学校規模に関係なく行われており、特に27学級を超える学校は全面改築が多い。
- 改修は18学級以下の学校に多い。

### ■ 整備手法別の学級数と校舎面積



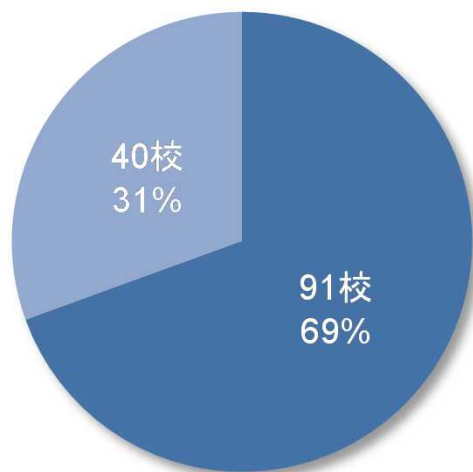
## 4. 施設一体型校舎の学校運営の観点からの集計

# 【1】 施設一体型校舎：学校運営面の状況①

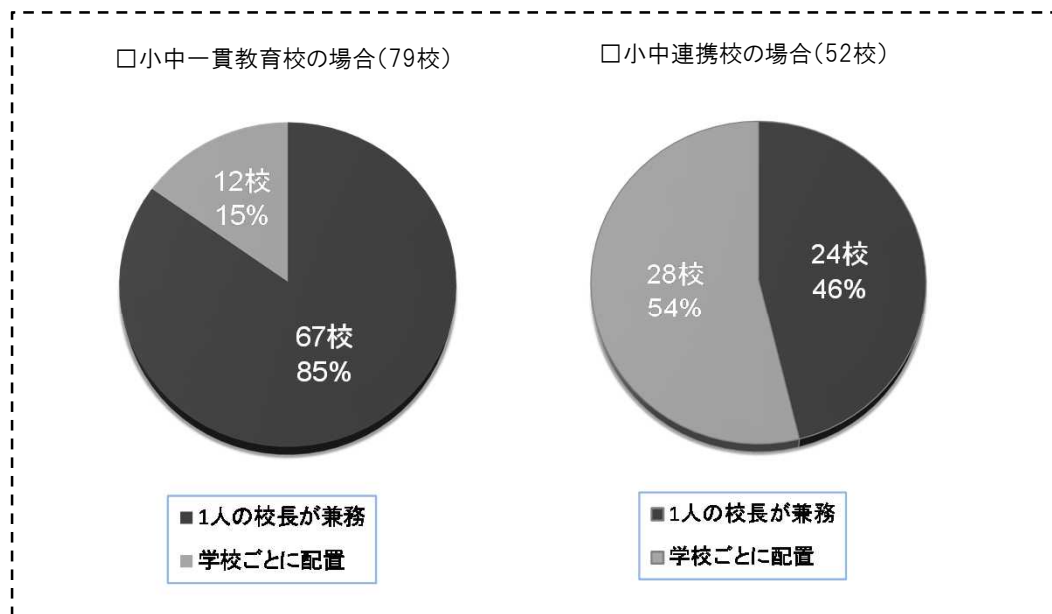
施設一体型校舎について、校長の配置状況を分析。

- 近年開校した施設一体型校舎(131校)について、91校(69%)が1人の校長を配置している。
- 小中一貫校(79校)では67校(85%)、小中連携校では24校(46%)が1人の校長を配置している。

■ 校長の配置状況(全体;131校)



- 1人の校長が兼務
- 学校ごとに配置

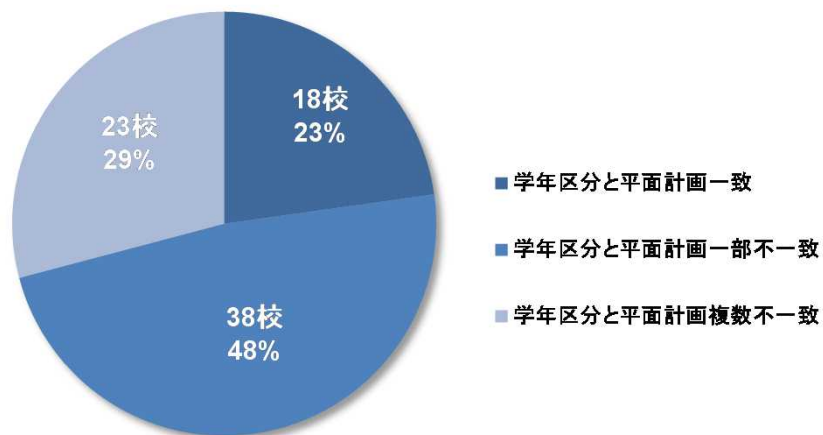


## 【2】 施設一体型校舎：学校運営面の状況②

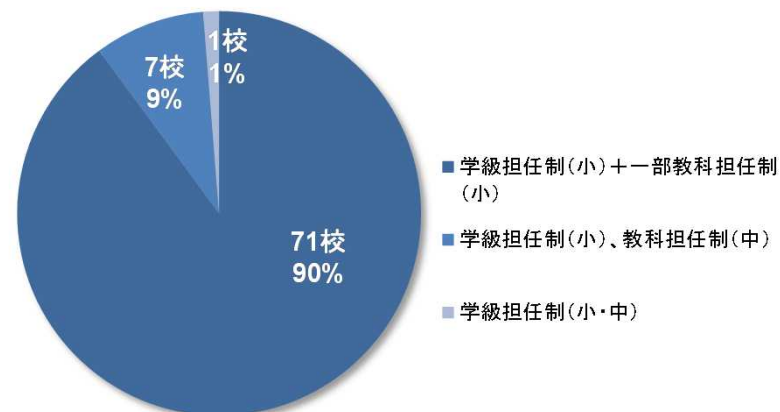
施設一体型の小中一貫教育校(79校)について、学年区分と平面計画(ゾーニング)との関係や、授業方法等について分析。

- 平面計画(ゾーニング)について、一部不一致を含めれば、56校(71%)が学年区分と一致させている。
- 授業方法について、71校(90%)が小学校に一部教科担任制を導入している。
- 授業時間について、45校(57%)が小学校45分、中学校50分を採用、次いで29校(37%)が5年生以上50分を採用している。

■ 小中一貫教育校における学年区分と平面計画の関係(79校)



■ 小中一貫教育校における授業方法(79校)



注) 学年区分と平面計画一部不一致は、学年区分とゾーニングが1箇所異なる場合。  
学年区分と平面計画複数不一致は、学年区分とゾーニングが2箇所以上異なる場合。

(例) 学年区分(4-3-2)とゾーニングが1箇所異なる場合

	学年区分	ゾーニング	
1年生	前期	1階	不一致
2年生			
3年生			
4年生	中期	2階	一致
5年生			
6年生			
7年英			
8年生	後期	3階	一致
9年生			

■ 小中一貫教育校における授業時間(79校)

